



図5 愛宕澤遺跡



図4 遺跡の位置 2万5000分1地形図「新津」

愛宕澤遺跡 秋葉区草水町二丁目

今から一万二〇〇〇年前ごろ、寒冷期が終わり、徐々に気温が上昇して現在の気候になる。この気候の変化とともに縄文時代が始まる。旧石器時代から縄文時代への移行期、「神子柴型石斧」みこしばがたせきふと呼ばれる大形で刃先が磨かれた石斧が使われた。長野県神子柴遺跡で明らかになった神子柴型石斧は、全国の三〇〇遺跡ほどで発見されているが、多くは一点だけの出土である。ところが、新津丘陵の愛宕澤遺跡では六点出土した。

愛宕澤遺跡は、阿賀野川支流の新津川（旧、能代川）のうだいがわに近い、標高一五〇メートルの丘陵上にある。平成十（一九九八）年と十三年に新津市教育委員会が発掘調査した。

遺跡の近くには、過去に須恵器の窯跡（草水町二丁目窯跡、二四ページ）が見つかったことから、調査当初は古代・中世の窯跡や製鉄遺跡があるのではないかと考えられていたが、思いがけず縄文時代草創期（一万二〇〇〇〜一万一〇〇〇年前）初頭の石器が一二点まとまって出土した。出土地は



図6 出土石斧

標高一五メートル、出土範囲は五メートル四方ほどである。一二点のうち六点が神子柴型石斧で、ほかは石核・礫器・敲石であった。石斧は六点とも折れていたが、完全であれば一五〜二〇センチメートルほどの大きさと推定される。

愛宕澤遺跡では、折れた石斧のみが残されていて、石斧を加工するときに出る石屑くずが出土していない。このことは、この付近で石斧が使用され、折れたものが意図的に集められたことを示唆している。

この時代は、日本列島に暮らす人々が土器を使い始めた時期である。残念ながら愛宕澤遺跡では土器は見つかっていない。発掘は限られた面積の部分的な調査であったため、近くにムラがあった可能性もある。近い将来、新津丘陵で新潟市最古の土器が見つかるかもしれない。